

講義名	オ)国際金融論		
担当教員	羽森 直子		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	授業形態	講義

履修開始年次	3年生	単位数	2	備考	
--------	-----	-----	---	----	--

主題と概要

国際金融論は、経済学の主要分野の一つである金融論の応用分野で、その内容は極めて多岐にわたっており、変化も激しいことが特徴です。しかも、世界規模でヒトやモノ、お金の行き来が急速に拡大するというグローバル社会を迎え、国際金融論を学ぶ重要性は増しています。

本講義では、国際金融論の基本的な事項についてできるだけ重要な解説を行い、受講生の皆さんに理解を深めていただくことを目的としています。具体的には、国際収支、外国為替、国際通貨制度、国際通貨統合、国際金融市場などを採り上げます。

到達目標

(1) 国際金融論の基本的な事項である国際収支、外国為替、国際通貨制度、国際通貨統合、国際金融市場等について内容を理解できるようになる。

(2) これらの基本的事項についてこれまでの動向を分析することにより、国際金融の分野ではどのようなことが問題になってきたのかを理解できるようになる。

(3) (1)、(2)の字びにより、経済のグローバル化が進展する現代社会の中で、ますます重要となっている国際金融の分野の諸問題に関心を持ち、解決策についても自分自身の意見を持つことができるようになる。

提出課題

中間レポート課題と期末レポート試験を提出していただきます。
 随時、宿題も提出していただきます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

随時実施する宿題については、回収後、授業で解説、講評を行います。
 レポート課題については、提出前に採点に関する注意事項を説明します。また、中間レポート提出後には全体的な講評を行う予定です。

評価の基準

中間レポート(約30%)
 期末レポート試験(約70%)

履修にあたっての注意・助言他

国際金融論は金融論の応用分野ですので、この科目をより深く理解するためには、ミクロ経済学、マクロ経済学、そして金融論を履修していることが望ましいです。日本だけでなく、外国のことや世界のことにも関心を持ちましょう。

対面授業はもろろん、オンライン授業に参加する場合も、ノートと筆記用具を準備して、必ずメモを取ってください。対面授業中の私語・携帯電話操作その他態度不良の場合は教員は注意をします。何度も注意された学生は、次のステップとして得点を大幅に減点されることがあります。

教科書	.使用しません。.				
-----	-----------	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献

資料は、毎回配布予定です。参考文献は、適時紹介します。

授業計画

第1回 国際金融とは？
 第2回 国際収支：特徴、経常収支と国民経済
 第3回 国際収支：国際収支統計の項目と特徴
 第4回 外国為替：為替相場
 第5回 外国為替：外貨為替市場
 第6回 外国為替：為替相場決定理論(購買力平価説、金利平価説)
 第7回 外国為替：為替相場決定理論(予想、市場介入)
 第8回 国際通貨制度：意味と機能
 第9回 国際通貨制度：歴史(金本位制、ブレントンウッズ体制)
 第10回 国際通貨制度：歴史(ニクソンショック、変動相場制)
 第11回 国際通貨統合：欧州通貨統合の歴史
 第12回 国際通貨統合：欧州通貨統合の実現
 第13回 国際通貨統合：欧州中央銀行
 第14回 国際通貨統合：欧州通貨統合の評価、ユーロ危機
 第15回 国際金融市場

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義ノートと配布資料の内容について復習し、内容を理解しておくこと。(1時間×15回=15時間)
 数回提出を求められる宿題の作成にあたり、調査、まとめを行うこと。(15時間)
 また、中間レポート、期末レポートの作成にあたっては、各約1か月間にわたり資料や文献を調査し、まとめること。(30時間) (合計60時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標(1)～(3)を達成することにより、経済学部経済学科ディプロマポリシー(DP)に貢献することができる。具体的には以下のとおりである。
 これまでの学制的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題の一つである国際金融に関する諸問題について幅広い観点から考察し、課題を提案することができるようになる。
 世の中の動きを理解して、経済問題を中心にした現代社会の諸問題の一つである国際金融に関する諸問題に解決策を提案することができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

対面授業の受講生が一時的に通学禁止となった場合は、資料配布など対面授業中での対応を行います。